

フタモンマルクビゴミムシ *Nebria pulcherrima pulcherrima* Bates

【選定理由】

本種は河川の礫と砂が混じる環境に生息する代表的な種だが、近年は全国的に生息の確認が困難になっている。県内においては、前回の調査からもまったく生息情報が得られず、かつて生息地があった庄内川においては本種の生息可能な環境が残されていないこと、隣接する岐阜県、三重県内にも生息地がないことから、県内では絶滅と判定した。

【形態】

体長 11~12.5mm の中型のゴミムシで身体は短太で平たく、前胸は心臓形で側縁が基方で強く湾曲する。全身赤褐色で上翅中央に一对の特徴的な大きな黒紋を有することからこの名があるが、斑紋には変異が多く、側縁と翅端を残して全体黒色となる個体もある。よく似たカワチマルクビゴミムシは、頭部の後縁と前胸背の中央部が黒色となることで区別できる。



名古屋市庄内川, 1941年5月4日, 穂積俊文 採集,
豊橋市自然史博物館蔵

【分布の概要】

【県内の分布】

1941年に名古屋市守山区竜泉寺下で採集された記録があり、この標本は、豊橋市自然史博物館に保管されている。この庄内川河川敷が唯一の記録地として知られている。これ以外では、1975年に名古屋市西区小田井町の庄内川遊水地で本種が採集されたという情報があり、庄内川には確実に生息していた。

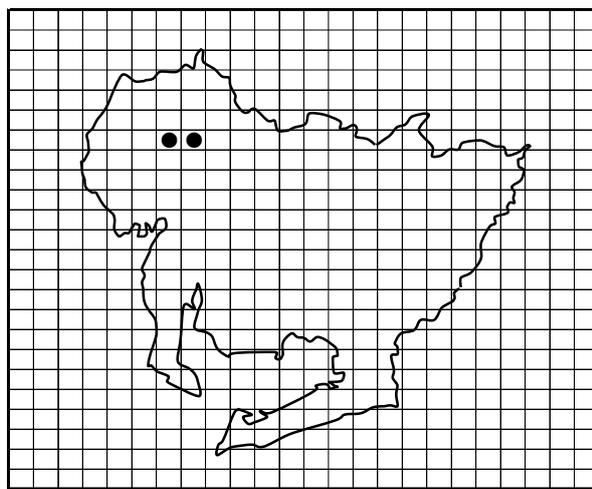
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

中国、台湾。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

河川敷の砂地から小砂利、礫の混じる環境に生息する。詳しい生態的特性は不明。

【現在の生息状況／減少の要因】

40年以上生息情報は途絶えている。砂礫地に生息する種であるので、砂防堤の建設によって生息環境が失われたことが原因と考えられる。

【保全上の留意点】

河川整備にあたっては、十分な環境影響評価を行うことが望まれる。

【関連文献】

岩崎 博・蟹江 昇, 1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
穂積俊文, 1960. 東海甲虫誌(9). 佳香蝶, 12 (41): 17-23.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)